

令和7年度第三セクター経営評価結果及び対応について

公益財団法人青森学術文化振興財団

1 令和7年度 経営評価

評価項目	目的適合性	効率性・効果性	組織運営の健全性	財務の健全性	透明性	自立性
第一次評価 (法人)	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好
第二次評価 (所管部局)	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好

全ての項目において「概ね良好」という結果となっている。

※参考 令和6年度決算

- 当期損益 △17,281千円 累積損益 260,811千円
- 市からの収入 なし

2 第三セクターの対応

◆経営戦略プラン(R7～R9)の取組と計画

令和6年度に策定した経営戦略プラン（計画期間：令和7年度～令和9年度）に基づき、設立目的達成に向けた取組を継続していく。

○具体的な取組

- ①大学等の地域還元への支援の継続実施
- ②安全性の高い資産運用による経営安定
- ③職員の資質向上及び法人内部の知識蓄積

○財務計画：令和6年度までは基本的に当期損益は黒字としないこと(收支相償)を求められてきたが、令和7年4月から、公益目的事業に係る収入をその実施に要する適正な費用に充てることにより、中期的期間で收支均衡を図ることが目標

【取組状況】

令和7年度については、経営戦略プラン及び市の指導を踏まえ、大学等による研究事業や公開講座などの地域還元への支援を行うとともに、資産運用による事業費の確保により、安定的な経営に努めている。また、職員の資質向上に向けた取組として研修を実施し、法人内部の知識の蓄積に努めた。

令和8年度以降についても、資産運用による安定・継続した事業費・運営費を確保しながら、効率的・効果的な事業実施に努めていく。

3 市の対応

財団が実施する助成事業については、地域の学術・文化の発展に効果的な事業を継続すること、懸賞論文事業については、応募テーマの見直しや周知先を増やすとともに論文の評価基準を周知するなど、応募しやすい環境づくりに努めるよう指導している。

また、資産運用収入の範囲内で事業を実施している財団であることから、今後も計画的な資産運用による健全経営の継続と、効率的・効果的な事業実施を促していく。